

「特集ワイド」へご意見、ご感想を tyukan@mainichi.co.jp ファクス 03-3212-0279

特集ワイド

大学受験の予備校が激変しているらしい。先月末には、大学受験予備校大手で老舗の代々木ゼミナール(本部・東京都渋谷区)が、来年度から全国の約7割の校舎を閉鎖すると発表した。予備校の大教室で学んだ世代には「7割閉鎖」は驚きだ。「予備校時代」の光景はどう移り変わっているのか。

【江畑佳明】

代ゼミ 来春、校舎7割閉鎖

代ゼミは、現在全国展開する校舎のうち、来年度から19校を閉鎖し、大都市圏の7校に集約する。全国規模の模擬試験も中止する。今月6日には複数の全国紙朝刊に「代ゼミは、つぎのページへ。」と題する全面広告を掲載した。そこでは、授業の録画映像や、生中継の「サテライトゼミ」を受講できる拠点を現在の約400校からさらに拡大する方針を打ち出した。都市部の校舎にわざわざ行かなくても、近所の教室の個別ブースでモニター映像の授業を受けられる場が増える。つまり、映像授業が主流になるのだ。広告の最後はこう結んだ。「志望校合格のために、一人ひとりにあった教育環境を」。代ゼミといえは「名物講師と大教室」というイメージからは、ほど遠くなった。かつては大学をしのぐほどの大規模な入学式が行われた。会場の大坂城ホールは生徒で満杯になり、あいさつした僕が巨大なスクリーンに映し出されました。そう語るのには、元代ゼミ講師(現代文)で、現在は教育系の出版社「水王舎」を経営する出口汪(おぐち)さん(59)だ。出口さんが代ゼミ講師だったのは1986〜93年。92年度には大学志願者数が92万人とピークに達しており、まさに全盛期だった。

出口さんは大阪の他の予備校講師だったが、スカウトされて代ゼミへ移った。論理的な思考で解答を導き出す手法が好評で、すぐに人気はトップクラスに。大阪校最大の450人収容



渋谷区代々木の本部校代ゼミタワー。26階建てで教室や自習室のほか、18〜25階は寮になっている。江畑佳明撮影

大教室で授業 人気講師に差し入れ 漫画にも… 消えゆく「予備校文化」



1989年4月、東京・日本武道館で行われた代々木ゼミナールの入学式には生徒ら約2万5000人が参加した。横断幕に書かれた「日日是決戦」は現在もキャッチフレーズだ

の講義は受け付け開始後すぐに「完売」状態になった。教室には受講生が「頑張ってください」の思いを込めて差し入れた栄養ドリンクがずらりと並んだ。出口さんは「受講生は一言も聞き漏らすまいと真剣そのもの。それに添えるために教室の音響設備も上質で、講師が普通の声量で話しても聞き取りやすいように作られていた。あの緊張感、臨場感は素晴らしい」と振り返る。授業後は質問の受講生が列を作り、1人30秒に限定された。「サインしてください」という生徒もいて、スターとファンの関係みだした。

予備校を取り巻く環境は大きく変化している。大学進学情報発信している「大学通信」の安田賢治ゼネラルマネージャーによると、今春の大学志願者数は約66万人。浪人数は約5万人で、ピークだった90年代前半の8分の1ほどだ。「少子化と大学の定員割れが相まって、『選ばなければ入れる』大学全入状態が到来。2008年のリーマン・ショックが家計を直撃し、経済的余裕が親になくなった。さらに安定した就職先が比較的得やすい医、薬、工学部系の理系人気が高まったため、私立文系が主なターゲットだった代ゼミは苦戦を強いられたと解説する。予備校の授業は今やブースで映像を見るスタイルが主流に。代ゼミも何百人も入る大教室での授業は10年ほど前に無くなっている。安田さんは「最近では、

個別の指導が行き届いて、現役時に全部不合格でやむなく予備校通いをするケースは少ない」と語る。受験生のマインドも変化した。「1年浪人すればさらに上位の大学に合格の可能性があるのに、失敗を恐れてチャレンジしない。やり抜くことで自信をつけたり、失敗を乗り越えたりすることが必要なのに、それを経験せずに就職試験を迎えるから、何社も落とされると人格を否定された」とショックを受けてしまう」という。

衆院議員の辻元清美さん(54)は予備校で人生が変わったと言いつける。名古屋市内の高校を卒業後79年に浪人生。同市内の代ゼミで、作家の小田実さん(07年逝去)の英語の講義がある(予備校)と聞き申し込んだ。だが講義は少し変わっていた。教材は小田さんが関心を持った新聞や雑誌の英文記事。それを読ませ、受講生は意見を英語で発表した。「受験ノウハウなんてほとんど教えない。文法だけ知っててもあかん。それを使って何を伝えたいか、自分の頭で考えろ」と言われました。難しいし、おかしいなと言ったら怒られるし、

当てられるのが嫌だったわ」と振り返った。授業後は小田さんが喫茶店で「コーヒーをどうぞ」としてくれることもあった。

「受験に役立ったかといえは、何ともいえません。でも社会に対する批判の目を養うことができたのは確かです」。辻元さんは浪して早大へ入学。その後NGO「ピースボート」を創設、国会議員になった。

元代ゼミの名物講師で英文読解の参考書を多く記した古藤晃さん(68)は「予備校は大人になるきっかけをつかむ人間教育の場」と語る。古藤さんも小田さんの教え子だ。「予備校講師は、大学や高校の教員と違って身分保障がなく、個性的な人物が多い。浪人して人生に悩んでいるときに、厳しい現実を生きている講師に出会う。これはインパクト大です」。ウエットな人間関係も予備校の大きな魅力だった。予備校を舞台にしてヒットした漫画があった。予備校生の葛藤を描いた「冬物語」だ。浪人中の私立文系志望の主人公が、東大を目指す女の子に恋をする。87〜90年に連載され、映画化もされた。登場する「山の手ゼミナール」は代ゼミがモデルだ。作者の原素則さん(53)は「大手予備校といえは代ゼミだった」と述懐する。だが「今は予備校が舞台の漫画は描けないかもしれない」というのだ。「最近個別指導が徹底されており、私立文系の主人公と東大志望のヒロインという方向性が違う2人が出会う設定は、現実的ではないから」と残念がる。

さういって続けた。かつては大学名がその後の人生を大きく左右したから、ワンランク上の大学を目指して浪人しました。しかし今は一流大学出身だから人生の展望が開けるわけではなく、あえて浪人する必要はない。時代が変わったのでしょうね」

高校でも大学でもない、予備校ならではの人生の濃密なページが確かにある。しかしそれが失われていくのも、時代の必然なのかもしれない。